

研究テーマ：「書くこと」による表現力を向上させるための指導の工夫

所属 南国市立香南中学校

氏名 豊 永 信 子

R G JH2

1 研究の背景

現在、担当している3年生は2年生から担当している。担当し始めた時、意欲が低く、基本的な学習活動にも抵抗があった。担当2年目のCRT分析では前年度よりも意欲が高まり、「聞く」力も高まってきている。生徒たちの多くは「1年の時に真面目にしていなかった」「英語は楽しくなかった」という意見を持っており、基礎に不安をもっている。そこで  
毎時間始めに単語を聞き取り、つづりも書く小テストを継続している。  
音読に力をいれ、教科書の読みの発表を定期的に取り入れている。(音読テスト)  
マッピングや会話シート・タスク活動を取り入れて基本的な会話ができるように工夫している。(ALTとのインタビューテストやスピーチ)  
リスニングの小問題を毎時間行う。  
などの工夫をし、成功している。

しかし、問題点として  
「読むこと」「書くこと」の力が低い傾向にある  
少人数制を取り入れており、取り出し授業を行っているが、体育の先生が担当しているため音声面の指導が困難である  
「聞くこと」「話すこと」「音読」が中心になっており、「読むこと」「書くこと」の力を高めるための時間確保が不十分である。

2 リサーチエスチョン

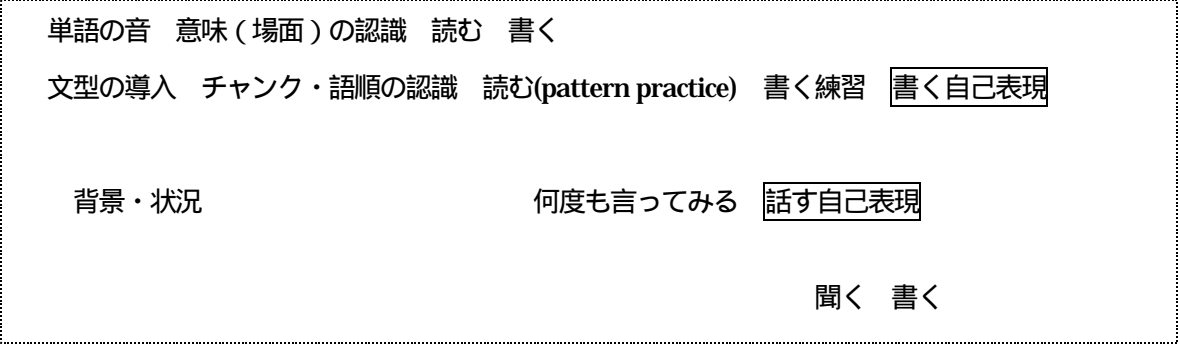
「聞く」・「話す」をどのように発展させていけば、「読む」・「書く」力を無理なく高めることができるか。

3 予備調査

- (1) 授業観察の結果  
教え込む授業になりがち、生徒に考えさせる時間を確保できていない。  
生徒の活動時間は確保されているが「活動の仕方が十分理解できていない」生徒がいる。  
単語力に不安のある生徒が多いため、活動の進まない原因になっている。  
活動が単発的になってしまっている。
- (2) 英語力を示すデータ資料 参照 (CRTの分析)
- (3) アンケート、授業評価の結果 資料 参照  
活動の仕方をペアで確認しあってから行うなどの工夫が必要  
思った以上に基本に不安をもっている  
気にしていないようで結構、私語を不満に思っている  
単語力に不安のある生徒が多い  
早口になりがち・・・注意が必要
- (5) 文献研究 資料 田尻悟郎先生の実践が参考になりそうである。

4 仮説の設定について

仮説を設定するには、「言語習得の道筋(コミュニケーション能力育成のための道筋)」をしっかりと考えていけばよいと考えた。これまで、私の授業では生徒が「聞くだけ」「言うだけ」「書くだけ」「読むだけ」の授業になっていた。それを連携させる手立てを考えた。また、基礎となる英語力も生徒の意欲をそがない形で定着させていく必要がある。



以上のようなことを頭に描きつつ、仮説を立てると以下ようになった。

## 仮説

授業の冒頭で毎時間行っている単語のディクテーションは大変有効なので継続し、あわせて文のディクテーションを行うことにより、語順の認識に役立ち、文を書くことへの抵抗が少なくなる。

チャンク（分節）に分けたワークシートを用い、チャンクごとに読み取る。また、チャンクを意識した Q & A を行うことにより、語順を意識した読み取りができるようになる。

聞き取りや読み取りで焦点をあてたポイントを中心にモデルを与えて、話す活動を行い、さらに話した内容を書く活動を取り入れることにより、語順を意識したまとまりのある文が書けるようになる。（田尻悟郎先生の実践を参考に）このように意識してお互いを連携させた活動を繰り返すことにより、生徒は次第に自分の力で読み取ったり、自由度の高い書く活動に抵抗なく取り組めるようになる。

## 5 計画の実践

### 「フィールドノート」をつける

#### （１）単語力・・・毎時間の導入

単語力の不足を補うために、毎時間「単語５・文１のディクテーション」を行った。生徒が自己学習に利用している「整理と研究（暁出版）」の末尾の入試によく出る単語リストを利用した。生徒たちは単語や文を聞き取り、綴りと日本語訳を書く。音声面の情報も一緒に復習できる点がよい。

#### （２）「読み物教材」を利用した授業

３年も学年末になると教科書は「読み物教材」が中心になる。その中で読み取る力を高め、文法事項を復習しつつ、自己表現に結びつけるために、以下のような指導過程を試みた。（資料 参照）

ワークシートを用いてチャンクを意識しながら読み取っていく。（チャンク文に訳す）・・・個人  
日本語や英語で Q & A をする中で、全体で内容を確認する。・・・一斉

（黒板には だれが(は) ～する ～を(が) どのように どこで いつ の掲示を常にしておく。「だれが?」「どう

した?」 How did Mariko go? To where? When? のように質問していく。）

ペアーでワークシートを確認しあう。・・・ペアー

ペアーで retelling 出来るよう練習する。・・・ペアー

音読・暗誦テスト（後日）・・・個人

#### （３）「語順指導 自己表現」を指導する授業

田尻悟郎先生のワークシートを基に語順指導用のワークシートを作成し、語順や文型を指導し、それらを意識しつつ自己表現をしていく授業（６時間計画）を仕組んでみた。（資料 参照）

語順・文型指導 / 練習 ・・・第１時

書く内容の深め方指導（マッピング） / マッピング 自己表現 ・・・第２時

自己表現・推敲 ・・・第３時 （添削個人指導）

音読練習（ペアー・グループ）・・・第４時

スピーチテスト（個人）・・・第５・６時

ペーパーテストにそれと同題の書くことによる自己表現の問題を出題した。

## 6 実践の結果 と 結果の検証

#### （１）表現できる文の数の変容 資料 参照

実践をすることにより、上位層は書ける文の数が相対的に伸びたが、中位・低位層は伸びなかった。ただし、数には表れなかったが、“I really Tokyo want to go.”のような文章がなくなり“I want to go Tokyo really.”のように語順を意識した文がほとんど全員が書けるようになった。これは大いなる一歩である。辞書や助けを借りつつ自己表現を全員が５文以上はできたが、テストでそれを再生できるまでにはいかなかった。

#### （２）読むことによる理解力の変容 資料 参照

それほど成果は見られなかった。

#### （３）授業評価より 資料 参照

総じて、語順を意識するようになったが、[give 人 物] [ask 人 to 動詞]のように簡単に表現して文型を覚えさせてはいるが、まだ知識として文型理解が出来ていない生徒も多い。依然として語彙に不安を抱いている生徒、文法的知識が完全に不足している生徒など・・・課題は多い。しかし、「わかるかもしれない・・・。」と思い始めた生徒が増えてきたことは大きな成果である。

## 7 成果と今後の課題

生徒のニーズにあわせて授業をすることは当然のことでありながら、できていないということに改めて気づかされた。３年生を担当しており、３年間全ての英語教育の不備を償いきるには時間不足の感もあるが、できる限りの努力を積み重ねれば、少しずつ英語らしい文が書ける生徒が増えてきた。何より達成感を持つ生徒が増えたことがうれしい。

今後とも限られた時間を精一杯、生徒のニーズにあった授業をするよう心がけ、より英語らしい文を５文以上楽しんで書ける生徒を増やしていきたい。（そのためには日々の授業分析・授業評価が不可欠である。）